
■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・「<CUE>利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・<CUE>とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。 cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1)【開催間近】第18回図書館利用教育実践セミナー in 京都のご案内
- (2)第17回図書館利用教育実践セミナー in 京都のご報告
- (3)第14回図書館総合展フォーラムのご報告
- (4)編集後記
- (5)図書館利用教育委員会委員

-
- (1)【開催間近】第18回図書館利用教育実践セミナー in 京都のご案内

生涯にわたって学び、考え、集える図書館をめざして
～館種の壁を越えた情報リテラシー教育の展開～

日 時：2013年3月17日(日) 午前9時半～午後1時(開場9時)

会 場：キャンパスプラザ京都(京都駅前) 4階 第2講義室

交通アクセス：<http://www.consortium.or.jp/>

主 催：日本図書館協会(企画・運営：図書館利用教育委員会)

プログラム

I 基調講演

「北欧の公共図書館と生涯学習－図書館はわたしたちの学校です－」

講師：吉田右子氏(筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授)

II 事例報告

(1)「情報から意味を読み取る情報リテラシーの育成－育成の必要条件－」

講師：家城清美氏（同志社大学・同志社女子大学・大谷大学嘱託講師
／元同志社女子中学高等学校司書教諭）

(2)「アクティブラーニングを主体とした双方向性の利用（者）教育」

講師：和田佳代子氏（昭和大学歯学部歯科医学教育学教室／JLA 図書館
利用教育委員会委員）

III パネルディスカッション

「館種の壁を超えた情報リテラシー教育の展開をめざして」

パネリスト：各講師および JLA 図書館利用教育委員会委員ほか（予定）

司会：野末俊比古（JLA 図書館利用教育委員会委員長）

対象者：図書館職員，教職員，教育関係者，マスコミ関係者，一般

参加（資料）費：JLA 個人会員 500 円／左記以外 1,000 円

申込み：下記の申込書を JLA 図書館利用教育委員会事務局まで電子メールにて

送付：cue@jla.or.jp

※申込書にご記入いただいた情報は今回の研修の企画・運営の参考
にするほか，今後，研修等の情報をお送りする場合などを除き，
利用・公表することはありません。

定 員：280 名（先着順）

メール申込みは 3 月 11 日（月）まで，以降は当日受付。

《図書館利用教育実践セミナー（2013 年 3 月 17 日（日））》 参加申込書

■ 申込日： 月 日

■ 氏名：

■ 氏名ヨミ：

■ JLA 個人会員／JLA 個人会員以外の別（会員の場合は会員番号も）：

■ 所属：

■ 住所：

■ 電話番号：

■ 電子メール：

=====

(2)第 17 回図書館利用教育実践セミナー in 京都のご報告

京都でのセミナー開催の歩みと図書館利用教育に関する 6 件の発表

—96 名が参加し，質疑応答も活発に行われる—

春田和男（東京家政大学）

日本図書館協会（担当：図書館利用教育委員会）は、2012年3月10日、キャンパスプラザ京都にて、「館種を超えた図書館利用教育のスタンダードをめざして」と題し、第17回図書館利用教育実践セミナーを開催した。京都での開催は7回目である。今回は、野末俊比古委員長（青山学院大学）の開会挨拶、赤瀬美穂委員（甲南大学）による京都でのセミナー開催の趣旨とこれまでの歩みの説明ののち、次の6件の発表が行われた。

1) 石川敬史委員（工学院大学総合企画室兼図書館）「図書館利用教育ガイドラインの可能性：未来へ「つなぐ」ために」、2) 宍道勉氏（鳥取短期大学）「司書教諭課程における「利用教育」に関する指導の事例」、3) 福田博同委員（跡見学園女子大学）「アクセシビリティを考えた図書館利用教育：司書課程における授業例」、4) 高田淳子氏（神奈川県立図書館）「公共図書館と情報リテラシー教育～実践のヒントを考える～」、5) 青木玲子委員（独立行政法人国立女性教育会館）「多様な利用者への情報サービス支援～専門図書館・男女共同参画センターの視点～」、6) 古賀崇氏（京都大学附属図書館研究開発室）「「利用教育」の射程を考える：京都大学での実践をもとに」、の6件である。

その後、有吉末充委員（京都学園大学）の司会進行で、6件の発表に関する質疑応答が活発に行われた。今回のセミナーには、各館種の図書館職員など96名が参加した。

(3)第14回図書館総合展フォーラムのご報告

倉部史記氏と江頭晃子氏による講演を横浜で開催
—91名の参加者が集まり、活発な質疑応答が行われる—

春田和男（東京家政大学）

日本図書館協会（企画・運営：図書館利用教育委員会）は、2012年11月20日、パシフィコ横浜にて第14回図書館総合展フォーラムを開催した。

テーマは「生涯にわたって学び、考え、集える図書館をめざして―館種の壁を越えた情報リテラシー教育のプロデュース―」である。

野末俊比古委員長（青山学院大学）の開会挨拶、石川敬史委員（十文字学園女子大学）による趣旨説明ののち、倉部史記氏（NPO 法人 NEWVERY フェロー）と江頭晃子氏（市民活動サポートセンター・アンティ多摩）による講演が行われた。

倉部氏は、進路発見・進路選択の現場から見た高校生の情報リテラシーを事例として取り上げて講演を行った。高校生の周りにおける進路情報としては、大学のパンフレットやウェブサイト、教育情報産業の媒体、周りの大人の意見が挙げられるが、高校生自らがそれらの情報を検証することが大切であると指摘した。そのために、図書館には、情報の検証の仕方を考えさせるような取り組みを行うことを期待している。

江頭氏は「ミニコミ誌・市民活動からの発信～収集・保存・活用をめざして～」と題して、講演を行った。ミニコミとは、マスコミの対語の造語で、特定少数を対象とする情報の伝達方式のことであると定義したうえで、ミニコミ・市民活動資料の収集、保存、提供について解説した。最後に、図書館がこれらの資料を収集することの大切さを指摘した。

この2件の講演後には、質疑応答が活発に行われた。今回のフォーラムには、各館種の図書館職員など91名が参加した。

(4)編集後記

第84号をお届けします。今号では、昨年実施したセミナー・フォーラムの報告のほか、開催間近の第18回図書館利用教実践セミナー in 京都のご案内を掲載いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。
(春田)

(5)図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古 : 青山学院大学教育人間科学部

(委員)

青木玲子 : 独立行政法人国立女性教育会館
赤瀬美穂 : 甲南大学
天野由貴 : 椋山女学園大学図書館
有吉末充 : 京都学園大学人間文化学部
石川敬史 : 十文字学園女子大学
春田和男 : 東京家政大学人文学部
福田博同 : 跡見学園女子大学文学部
和田佳代子 : 昭和大学歯学部歯科医学教育学教室
久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

< C U E > 利用教育委員会通信 第 84 号 (23 卷 4 号) 2013.3.11 発行

・バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。
